認定 NPO 法人キッズドア
2022 年物価高騰の影響把握のための緊急アンケート 集計結果について

2022 年 11 月　認定 NPO 法人キッズドア理事長　渡辺由美子

2022 年は、コロナによる家計収入への影響に加え、食料品等の生活必需品や電気・ガス等の値上がりが相次ぎ、困窮世帯の生活に大きな影響を与えています。長引くコロナの影響や物価上昇等による家庭生活や子どもの心身への影響を把握し、今後どのような支援が必要かを検討するため、キッズドアでは以下の緊急 WEB アンケート調査を実施しましたので、結果をご報告いたします。

1. アンケート調査について（概要）

- 目的：長引くコロナの影響や物価上昇等による家庭生活や子どもの心身への影響を把握し、今後どのような支援が必要かを検討する。
- 対象：ファミリーサポートに登録し、年末年始に向けた食料支援企画に申し込んだ家庭
- 調査期間：2022 年 11 月 11 日～2022 年 11 月 16 日
- 回答数：1846 件

2. 調査結果まとめ

- ✓ 物価上昇により、家計が厳しくなったと回答した家庭がほぼ 100%。特に、「とても厳しくなった」という回答が 7 割を超えた。
- ✓ 家計維持のために出費を減らしている項目は食費、被服費、日用品費、娯楽費、光熱費などが多かった。
- ✓ 食事の変化としては、外食を減らした、おやつを減らした、肉・魚、野菜を減らしたという回答が多く、子どもの成長に必要な栄養が十分に得られなくなっている可能性がある。すでに子どもの成長に悪い影響が出ているという回答は約半数に達している。
  - ➢ また、子どもに食べさせるために親の食事を減らしたり抜いたりしているという回答も多く、保護者の健康も懸念される。
  - ➢ その他家庭の行動の変化としては、暖房や電気をつけないようにしている、貯金ができなくなった、子どもの成長に合わせた衣服や靴を購入できないという回答が多かった。
- ✓ 子どもの学びや心身の発達への影響も深刻で、学校外の学びの機会や地域の活動への参加を減らした、友達と遊びに行くのを減らした、文房具や参考書等の購入を控えたという回答が目立つ。
  - ➢ 体験活動が減った、勉強への意欲が低下したなど、子どもの学びや生活への悪影響が出たという回答は半数を超えており、受験など重要な時期を迎えるにあたって、子どもが深刻な状況に置かれていることがわかった。
  - ➢ 進学や進路について、高校生の子どもがいる家庭では、塾や予備校に行けない、参考書が購入できないという回答が目立ち、経済的な理由で志望校を諦めたという回答も約 2 割となっている。具体的には「物価高騰で出費が増えたので貯金ができず、進学を諦め就職にきりかえた。」「学費等が高い、または通学にお金がかかる学校は諦めてもらった。」という回答があった。
- ✓ 今後、年末年始にかけ、家族での外出、クリスマスやお正月の費用を減らす、水道・光熱費（暖房費含む）を減らすなどの回答が得られた。現在すでに切り詰められている生活が、さらに困窮していくことが明らかとなっている。

これまでのキッズドアの調査で、多くの家庭がコロナによる収入ダウンから回復していないことが判明しているが、物価や光熱費の高騰を受け、子どもと保護者の健康が脅かされていることが今回の調査から判明した。特に子どもへの影響は相当に深刻であり、心身の成長や学びへの影響がすでに出始めている。また、経済的な理由から進学や学習を諦めはじめている家庭も見られた。さらに、年末にかけて、より生活が切り詰められていくことも明らかとなった。

保護者と子どもの命を守るため、すみやかに現金給付などの直接的な支援が必要である。また、子どもが学びや進学を諦めなくてもすむよう、子育て世帯の実態に合わせた経済的な支援、高等教育無償化や給付型奨学金等の対象拡大、学習支援事業への追加の助成、受験費用や進学費用の減額などが早急に必要であり、支援実現のための施策を至急ご検討いただきたい。

3. アンケート結果概要

3.1 家計への影響

回答したほぼ全ての家庭が、物価上昇により家計が厳しくなったと感じている（「とても厳しくなった」（74%）と「やや厳しくなった」（26%）の合計）。特に、最も多かった回答は「とても厳しくなった」であり、7 割を超えている。

物価上昇を実感している項目としては、「食費」（99%）が最も多く、次いで、「光熱費」（85%）、「日用品費」（81%）と、日常生活で欠かすことのできない項目が続いている。家計維持のために出費を減らしている項目では、「食費」（84%）、「被服費」（74%）、「日用品費」（62%）との回答が多く挙げられた。

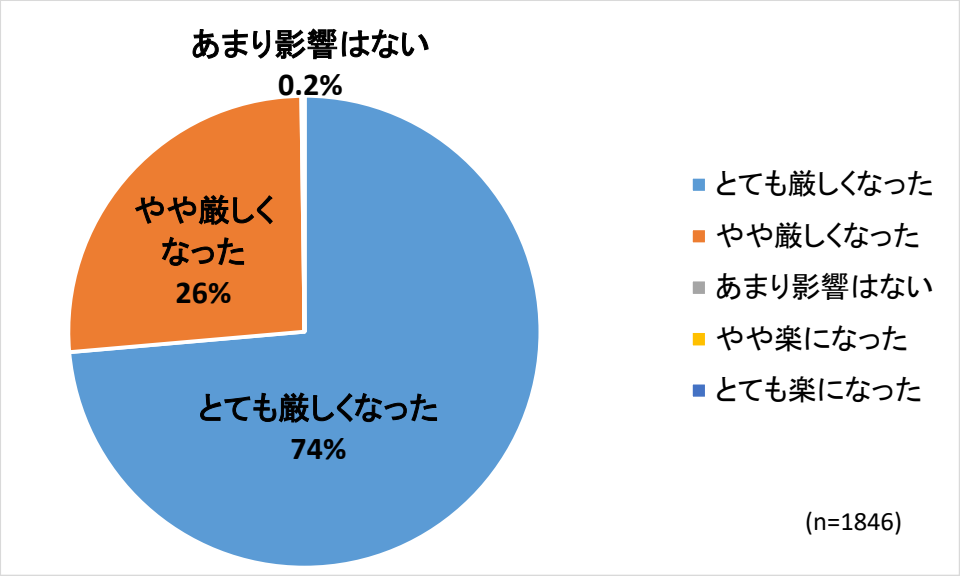

図 1　物価上昇による家計状況の変化

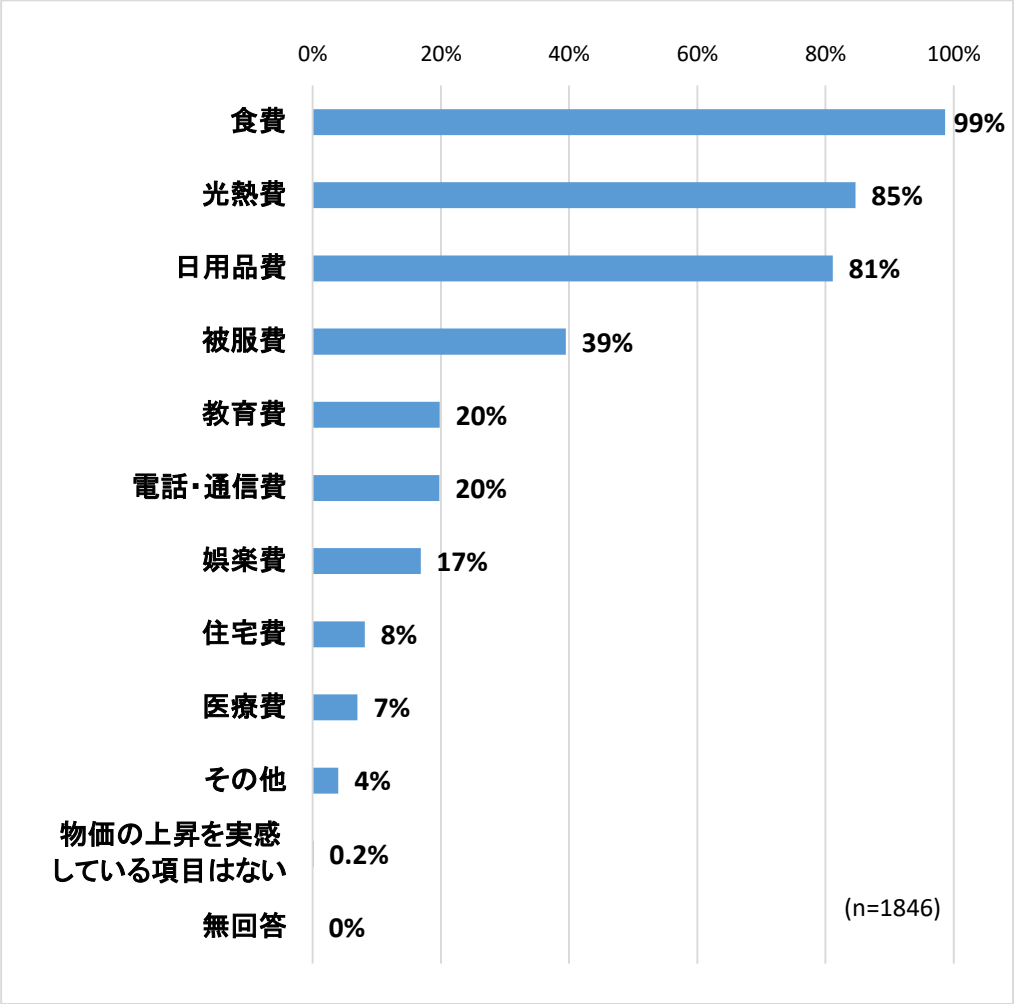

図 2　物価上昇を実感している項目（複数回答）

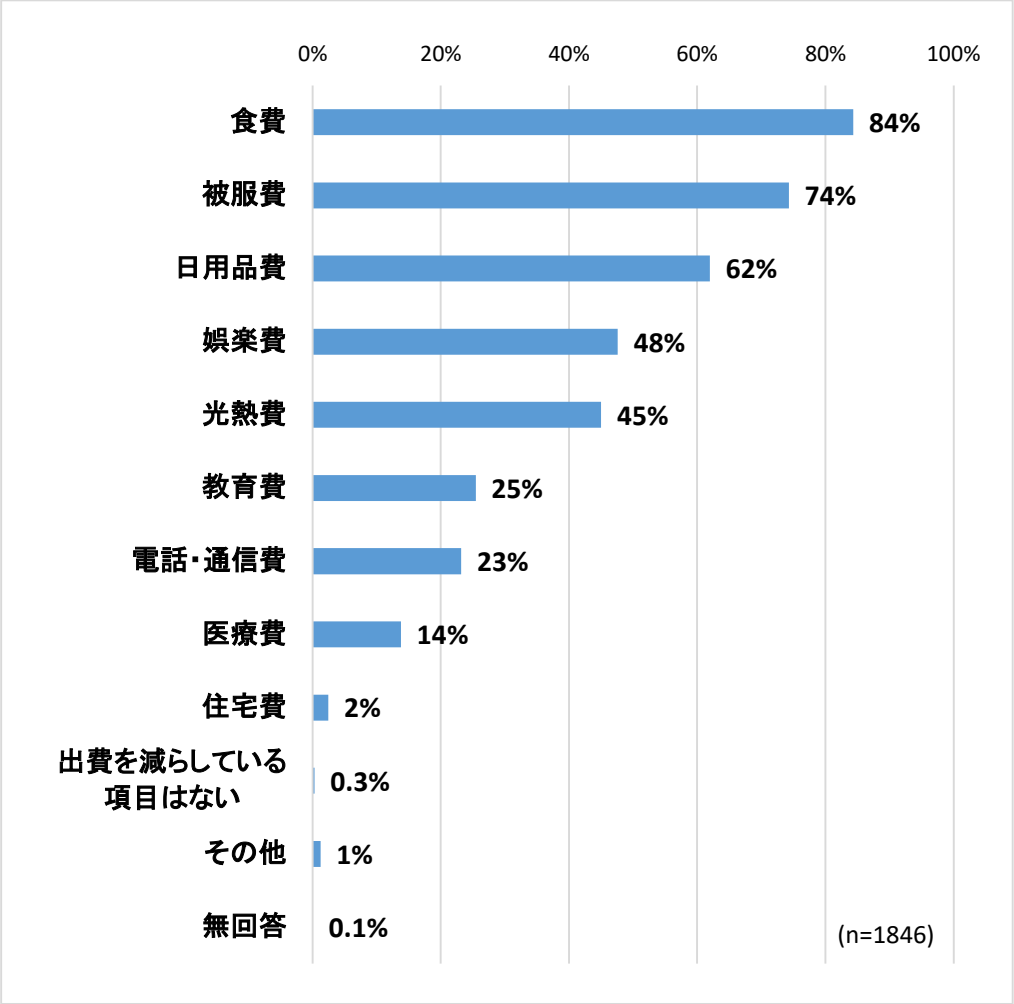

図 3　家計維持のために出費を減らしている項目（複数回答）

3.2　日々の食事・生活の変化

物価上昇による日々の食事の変化では、「外食を減らした」（67%）、「おやつを減らした」（65%）、「肉・魚を減らした」（63%）との回答が多く、いずれも 6 割を超えた。加えて、「野菜を減らした」（50%）との回答も半数であり、子どもの成長に必要な食材を減らさざるを得ない状況が伺える。

また、「子どもに食べさせるために親の食事を減らしたり抜いたりしている」（49%）との回答も約半数に達し、保護者の健康面が懸念される。一日の平均的な食事回数については、保護者で「1 回」（17%）または「2 回」（47%）との回答が 6 割超と、「3 回」（35%）を上回っている。子どもでは、約 7 割が「3 回」（68%）であるが、「2 回」（13%）との回答も一定程度存在している。

食事面以外での物価上昇による生活の変化では、約 7 割が「暖房をつけないようにしている」（73%）、約 5 割が「電気をつけないようにしている」（51%）と回答するなど、少しでも出費を抑えるために行動していることが明らかとなった。また、「貯金ができなくなった」（59%）、「各種の支払いを滞納してしまうときがある」（33%）、「お金を借りるようになった」（14%）など、日々のお金のやりくりに直接影響が出てしまっているケースも見られる。この他に、「子どもの成長に合わせた衣服や靴を購入できない」（48%）との回答も約半数に上った。

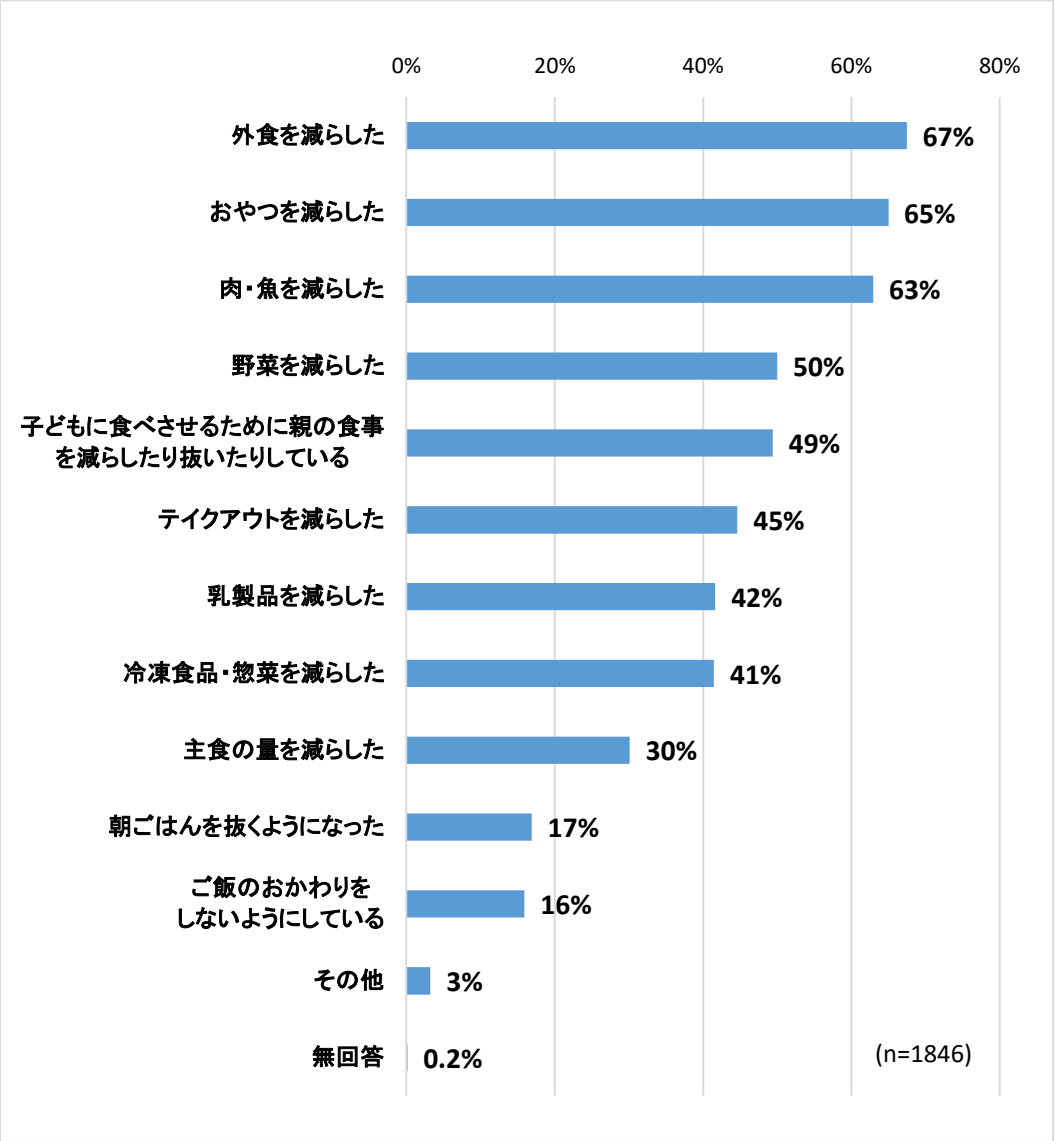

図 4　物価上昇による日々の食事の変化（複数回答）

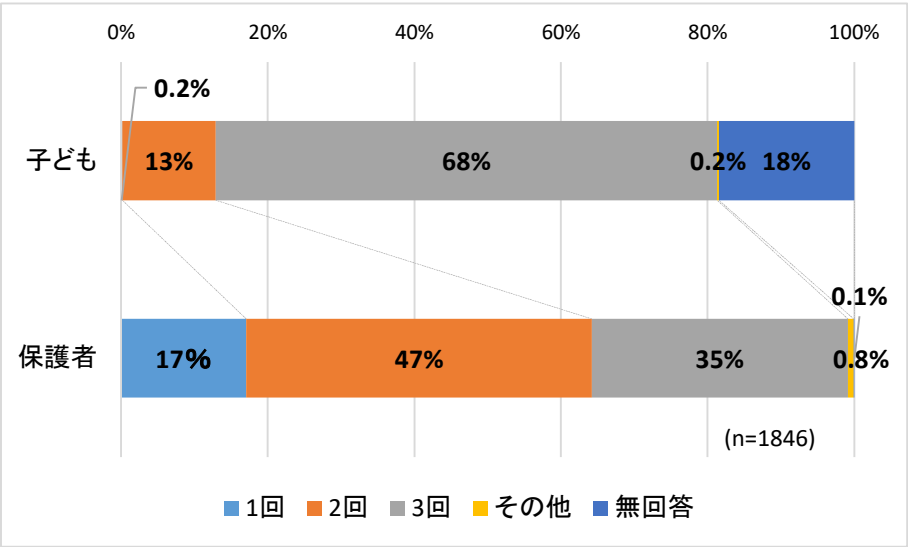

図 5　一日の平均的な食事回数

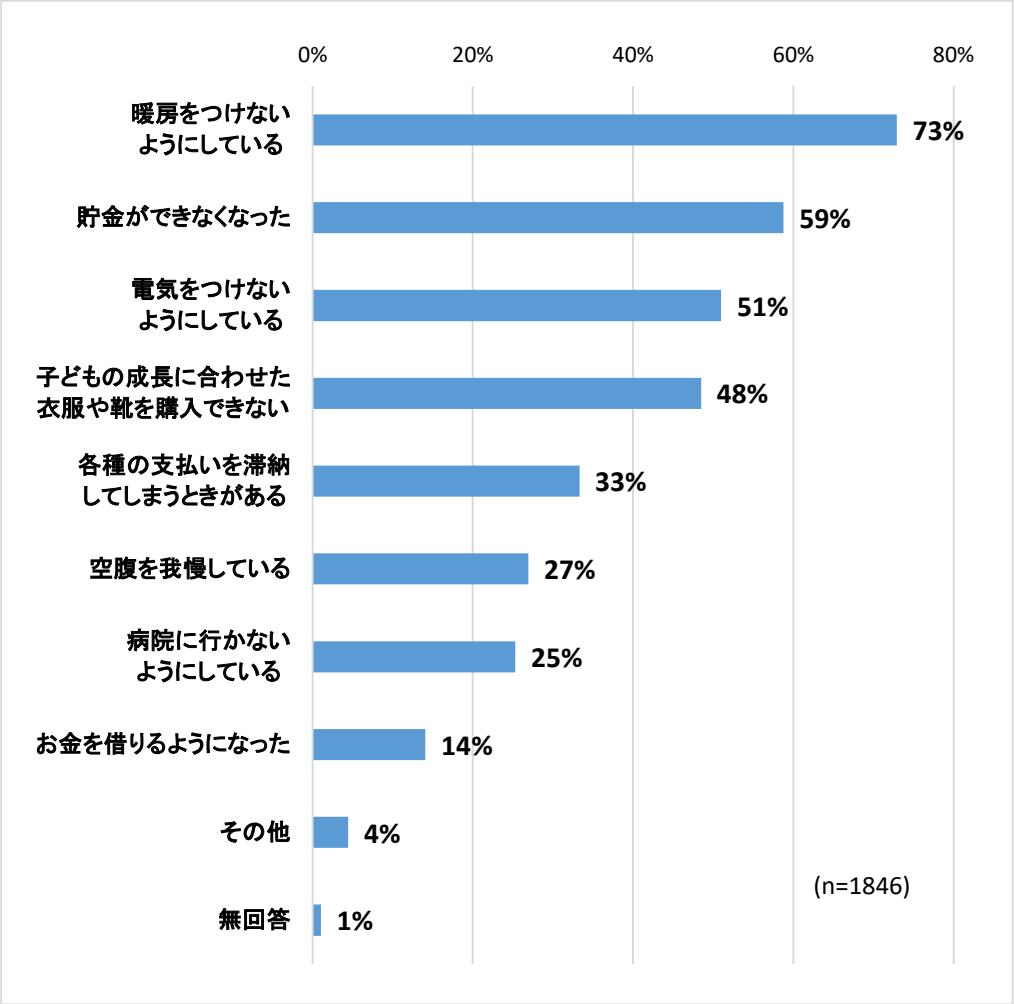

図 6　物価上昇による生活の変化（複数回答）

3.3　子どもの心身の成長への悪影響

物価上昇が、食事や栄養面で子どもの心身の成長に及ぼす影響では、「悪い影響が大いに出ている」（16%）、「悪い影響が出ている」（33%）と、子どもの成長にすでに悪い影響が出ているという回答が約半数に達している。悪い影響の具体的な内容としては、「必要な栄養がとれていない」（70%）が最も多く挙げられた。また、「風邪などの病気になりやすくなった」（28%）、「身長や体重が増えていない」（25%）など、健康面で問題が出始めていることを示す回答も 3 割程度あった。

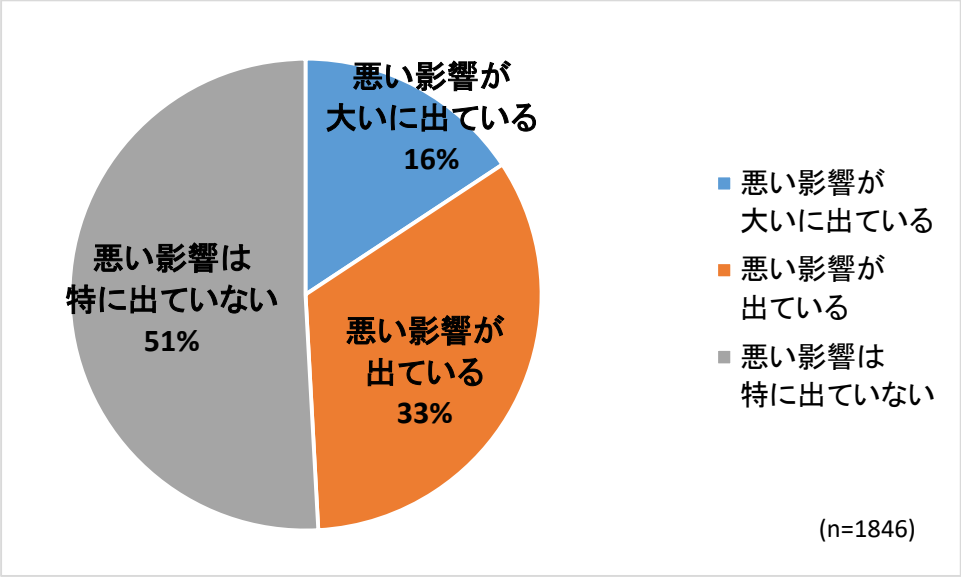

図 7　子どもの心身の成長への悪影響の有無

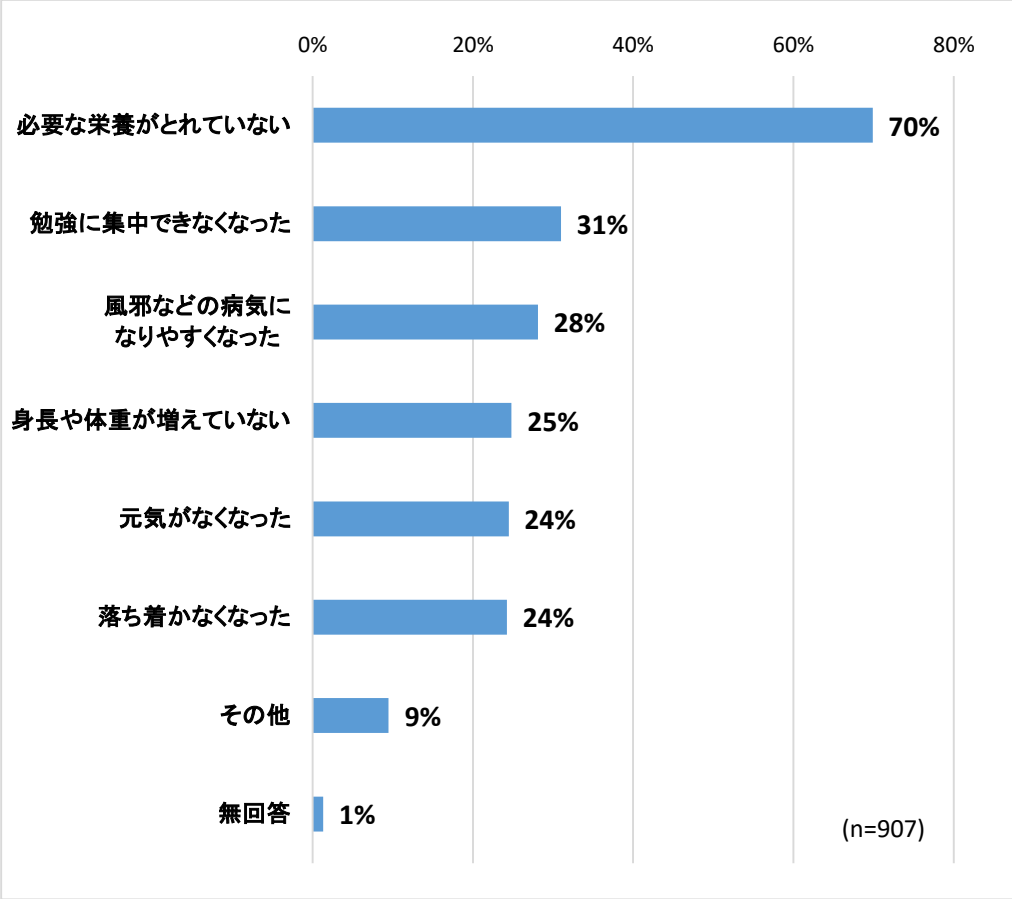

図 8　悪影響の具体的内容（複数回答）[1]

[1] 子どもの心身の成長への悪影響について、「悪い影響が大いに出ている」または「悪い影響が出ている」と回答した家庭が対象。

3.4　子どもの学びや生活の変化

物価上昇による子どもの学びや生活の変化としては、動物園や美術館等の「学校外の学びの機会を減らした」が 46%と最多であった。このほかに、「友達と遊びに行くのを減らした」（40%）、「参考書や本の購入を減らした」（37%）、「文房具などの学用品を減らした」（37%）、「地域の活動への参加を減らした」（31%）といった回答が多く、子どもの学びや、友達・地域など家庭外と交流する活動の機会が減っていることが示唆された。

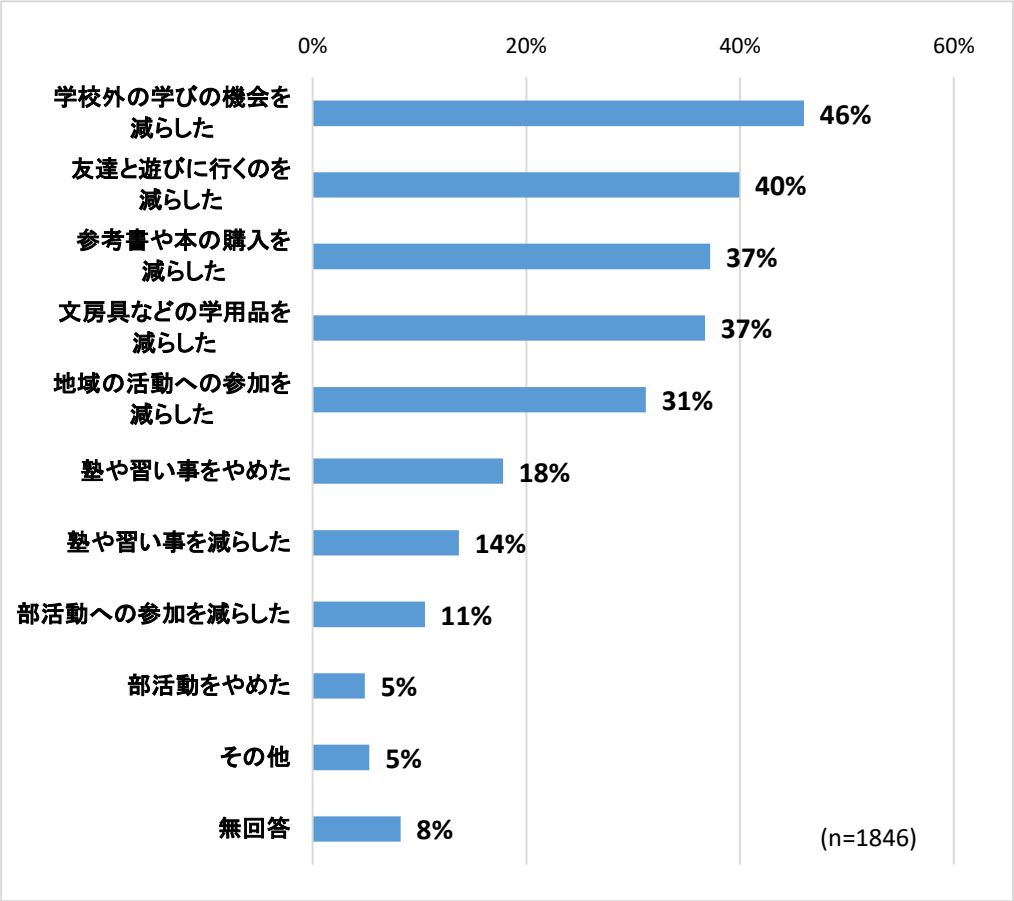

図 9　物価上昇による子どもの学びや生活の変化（複数回答）

3.5　子どもの学びや生活への悪影響

物価上昇による子どもの学びや生活への影響では、「悪い影響が大いに出ている」（18%）・「悪い影響が出ている」（40%）と、子ども学びや生活にすでに悪い影響が出ているという回答が 6 割に迫っている。

悪い影響の具体的な内容としては、「体験活動が減った」（51%）が最も多く、子どもの成長や学力向上で重要な役割を果たす各種の体験活動が減ってしまっている状況が明らかとなった。また、「勉強への意欲が低下した」は 45%、「勉強に集中できなくなった」は 33%と、受験等の重要な時期を迎える中で、子どもの学習に深刻な影響が出ている可能性がある。

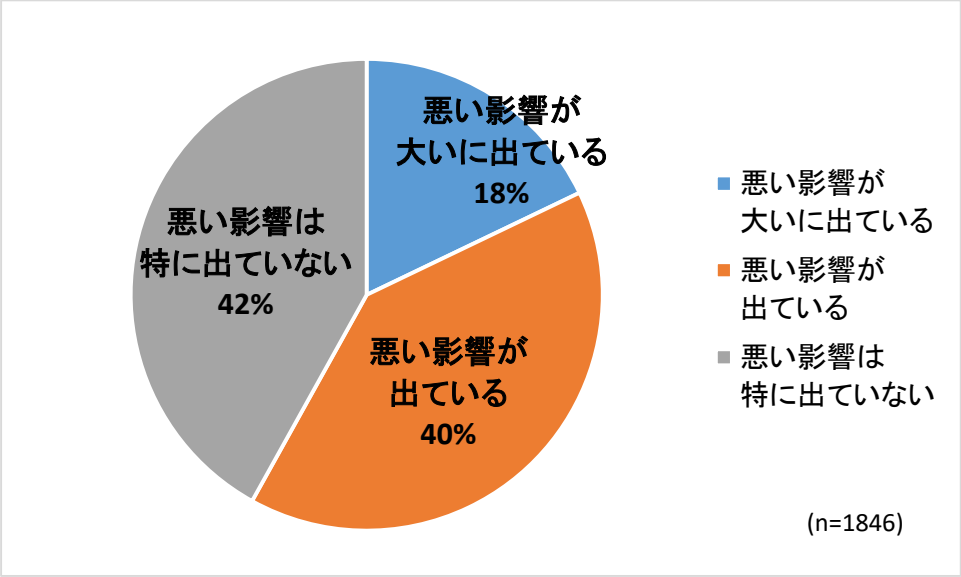

図 10　子どもの学びや生活への悪影響の有無

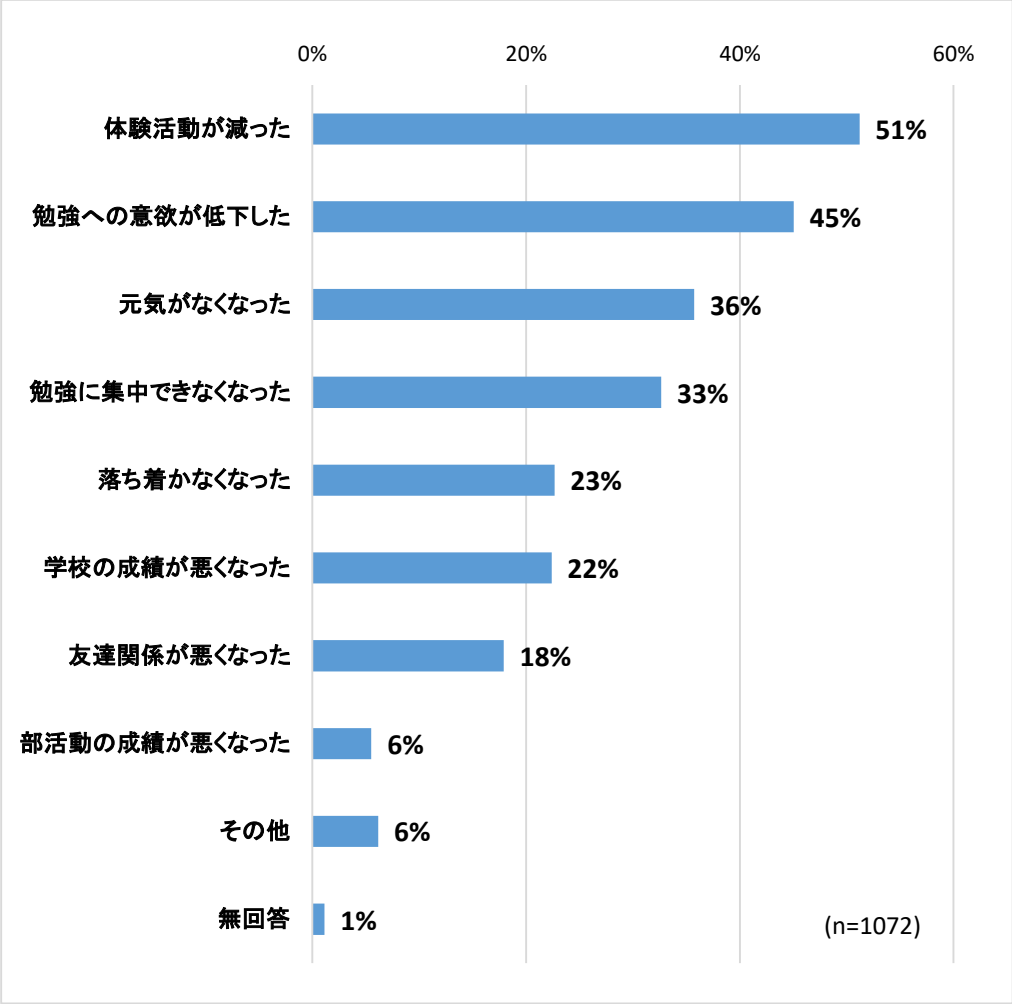

図 11　悪影響の具体的内容（複数回答）[2]

[2] 子どもの学びや生活への悪影響について、「悪い影響が大いに出ている」または「悪い影響が出ている」と回答した家庭が対象。

3.6　高校生の進路・進学への影響

コロナ禍や物価上昇が高校生の進路・進学に与えた影響としては、「塾や予備校に行けない」（54%）との回答が最も多く、「参考書が購入できない」（40%）が続いた。また、本設問に回答した高校生の子どもがいる家庭の約 2 割が「経済的な理由で志望校を諦めた」と回答しており、コロナや物価上昇が困窮家庭の高校生の進路に深刻な打撃を与えていることが分かる。

進路・進学への影響について具体的な内容の一部を表 1 に掲載しているが、進学から就職に進路を変更する、私立大学を諦めて国公立大学にする、県外など遠方の大学を諦める、滑り止め等の受験校数を絞る、大学から短大・専門学校等に進路を変更するといった回答が見られた。また、不登校になり進学できない、模試を受けられないため進路の判断材料が少なく不安、塾に行けず休校期間中に開いた学力差が大きく影響しているといった回答もある。この他に、高校受験の際に自由に進路を選択できなかった経験、子どもが経済的事情を察して進路についての話をしない、奨学金振込と学費納付期限のずれがありお金を準備できなかったなどの回答も寄せられた。

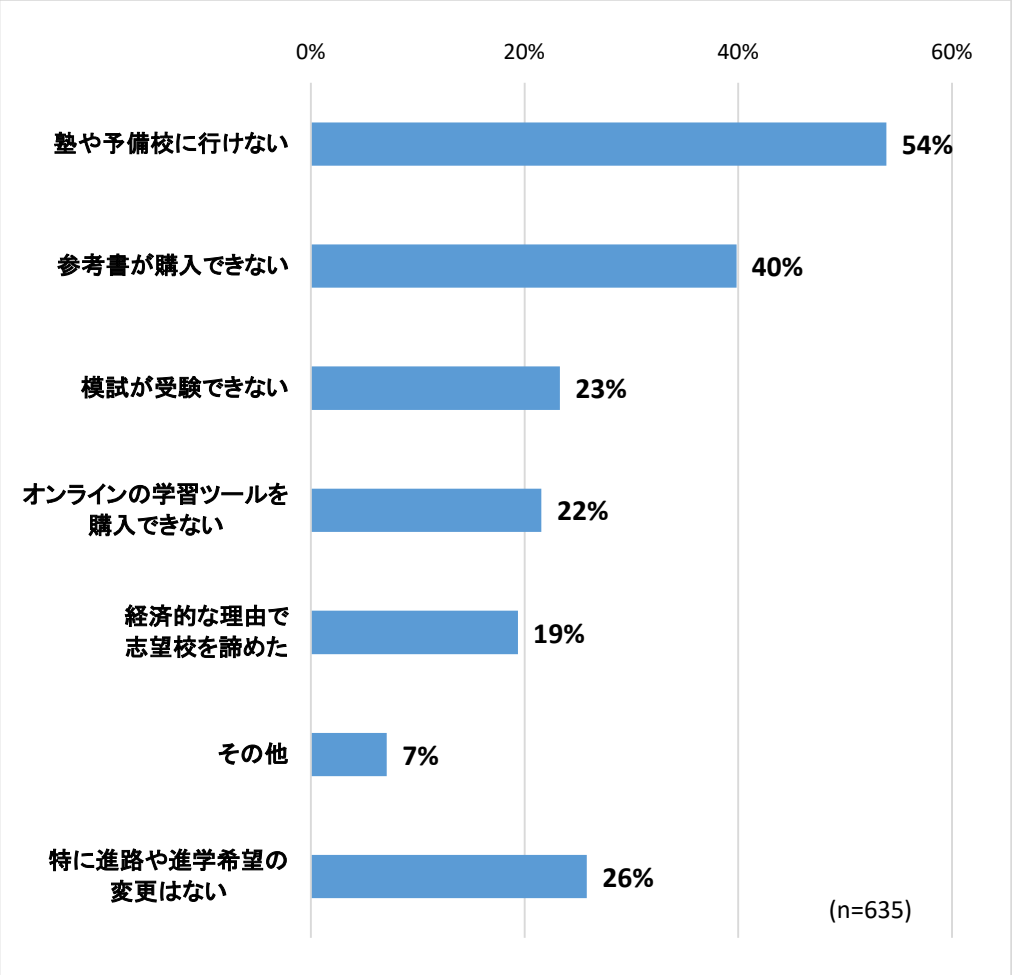

図 12　高校生の進学・進路への影響（複数回答）[3]

[3] コロナ禍や物価上昇の高校生の進路・進学への影響を尋ねる質問に回答した家庭のうち、「高校生の子どもはいない」と回答した家庭を除いた家庭が対象。

表 1　高校生の進路・進学への具体的な影響
（自由回答、全 217 件、一部抜粋・引用者にて編集）

- **進学→就職への進路変更**
  - 大学進学を希望していたが、就職に変更した。
  - 経済的な理由により就職するように伝えてます。
  - 進学希望でしたが、家計のこと、これから進学でかかるお金のことを考えて就職に変更し、家に給料を入れるねと言ってました。
  - 物価高騰で出費が増えたので貯金ができず、進学を諦め就職にきりかえた。まだ下に 2 人兄妹もいるので。
  - 本当は大学や専門学校に進学する選択肢もあったはずだけど、金銭的に厳しいので就職してもらうしかない。

- **それ以外の進路変更・進路選択の制限**
  - お金のかかる私立大学や専門学校を諦め、国公立一本で受験予定。落ちたら浪人するしかなく、その場合も予備校に行かせられないかもしれない。
  - 学費等が高い、または通学にお金がかかる学校は諦めてもらった。
  - 望んでいた大学が遠方にあり、交通費がかかる。また、県外にある為少し学費が高くなるなどの理由で違う大学に行くように進路変更を決めた。
  - 理系から文系学部へ志望を変更した。
  - 行きたい大学ではなく入学金の安い所や免除等があるところを探した。
  - 大学には行かせられないため、短大か専門で選ぶようにしてもらった。
  - あちこち払う受験料も大変だし、塾に通わないで今の成績で AO で入れる学校に進学を決めた。奨学金も通して何とか･･･卒業まで通えるかは不安です。

- **不登校・転学・退学等**
  - コロナで中々学校に行けなくなり、友達との関係も悪化し、結果退学することになった。
  - 高校を退学した。
  - 私立の高校に通っていたが、経済状況が周囲の友達と合わず、クラスに居づらくなり、通信制高校に転学した。
  - 不登校中で進学出来ません。

- **塾・模試や検定の受検・参考書等購入が難しい**
  - 希望の進学を叶える為には、塾や予備校に通いたいのですが、経済的に厳しく通えません。自宅学習に使用する参考書やオンライン学習ツールを購入することも難しいです。物価上昇で家計には大打撃で、沢山の事を諦めている状況です。
  - 塾無しでの勉強に限界を感じる。高校の授業がペースメーカーであった為、特に休校期間に開いた学力差は後々まで大きく影響。心身共に大きな影響があった。
  - 模試を受けたくても受けられなかったため、進路の判断材料が少なく、いつも「自分はどこの大学もきっと受からない」と先行きの不安を度々口にする。
  - 参考書や技術書を買い与えたり、資格試験に挑ませたいのですが大変困難です。大学は家計の問題でずっと前より選択肢から外しています。
  - パソコンもネットも繋げられないのでオンラインなどの学習ができないです。

- **高校受験での影響**

- 高校受験の際、私立の志望校を諦めた。本人も我慢している事は言わないが、仕方なく決めた学校生活はあまり楽しめていない。
- 校区内で 1 番の進学校へ通いたいと言われたがバス代などがかかるため諦めてもらい、近所の高校へ変更をしてもらった。
- 普通高校ではなく、制服などがない定時制高校に進学をさせた。

➢ **その他**

- 子どもがやりたい学びについてますます話さなくなった。進路や将来について希望を聞かれても「でもうちお金ないから」と思ったり言ったりして、そもそも「本当はどういう学びや生き方をしたいか」と考える習慣がないし、ますますその傾向は強くなっている。「お金はどうにかするから」と言っても物価上昇や年金や円の下落で貯金が目減りするのをニュースで知るので母子家庭の状況に絶望するらしい。あらかじめ諦めている様子。地頭がよい子だけに、歯がゆいし辛い。
- 大学の入学金や学費が高く、学校の納付期限に学費を準備する事ができなかった。日本学生支援機構の奨学金は、入学後に奨学金が振り込まれるため、お金のない我が家は、入学前に学費を準備できなかった。諦めてもらうしかなかった。国の大学無償化や給付型奨学金もすべて入学後の為、一括で立替えなければならず、低所得者にはハードルが高い。入学前に入学金と授業料を減額して学校に振り込める様、制度的に見直しが必要だと思う。
- 生活するために進学のために貯金していた貯金をくずし生計を立ててる。
- 東京の学校への進学先の下見やオープンキャンパスへはなかなか行けない。

3.7　今後減らす・なくす予定の出費

今後、出費を減らすまたはなくす予定の項目としては、「家族での外出の費用」（87%）、「クリスマスやお正月の費用」（79%）、暖房費を含む「水道・光熱費」（66%）が上位となった。学校が冬休みに入り、イベント等も多い時期に、家族での外出や季節行事等の子どもにとって貴重な機会が奪われてしまうことが懸念される。また、寒さが厳しくなる中、暖房費を含めた光熱費を抑えることで健康面での悪影響も危惧される。コロナ禍による減収や物価上昇でギリギリまで切り詰めた生活が、年末年始にかけて、さらに困窮していくことが示された。

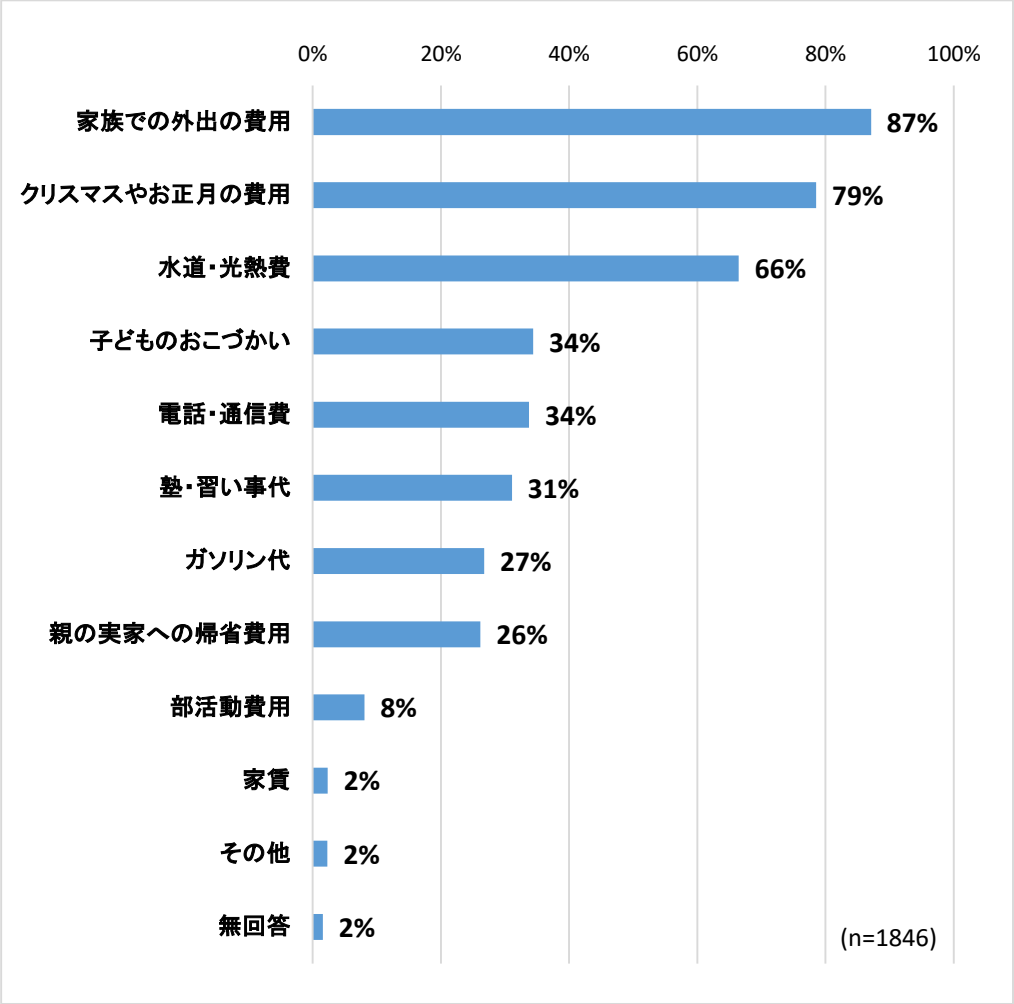

図 13　今後出費を減らすまたはなくす予定の項目（複数回答）

3.8　政府に伝えたいこと

政府に伝えたいことでは、自由回答で全 1019 件の様々な声が寄せられた。物価上昇では、食費や光熱費等が上がり経済的にも精神的にも追い詰められている状況、賃金が上がらないことへの不安などを伝える回答が目立った。コロナ禍については、仕事や収入への影響のほか、学校生活での制約による子どもへの影響を心配する声があった。困窮が深刻化する中で現金給付を求める意見も多かった。現金給付については、対象を非課税世帯に限らないでほしい、世帯人数を考慮した金額にしてほしい、一回ではなく継続してほしいとの声も見られた。また、現金給付への要望とともに増税について反対する回答もあった。

特に子育てにお金がかかるようになる高校生や大学生について、児童手当や医療費助成等の対象年齢引き上げを求める回答も多く見られた。子どもの学びについては、教育の無償化や授業料以外の費用の支援、既存の修学支援制度等をより利用しやすいものにする、不登校児への支援、塾など学校以外での学びへの支援を求める声があった。

ひとり親世帯に関連する回答では、ひとり親世帯の窮状（収入の低さ、就労における様々なハードル、頼る人のいない辛さや孤独など）、実質ひとり親や父子家庭も困窮していることを伝える回答があった。また、養育費の確実な受取りのための支援、児童扶養手当の見直し（所得制限や支給金額等）等を求める声も寄せられた。ひとり親以外にも、多子世帯の困窮や支援の必要性を求める回答もあった。また、世帯

構成を問わず、非課税世帯から外れると却って困窮してしまうという制度上の問題点を指摘する意見も目立った。

苦しい状況が長引く中で、政府には困窮子育て世帯の現実を知ってほしい、一時的ではなく将来につながる支援・根本的な支援をしてもらいたいという回答も多く寄せられた。

表 2　政府に伝えたいことなど

（自由回答、全 1019 件、一部抜粋・引用者にて編集）

➢ **物価高騰の影響や不安**

- コロナの影響で既に苦しい経済状況だったのに追い打ちをかけるような物価の上昇で支払いの督促などにも悩まされて経済的負担に加え精神的にもギリギリに追い詰められている。子どもたちも無気力になっている。5 年後、10 年後を考えるのが怖い。
- コロナ禍の収入減少で家計が打撃を受けたのが改善されないままこの頃の物価上昇でとても生活が苦しい状態です。所得が上がらないのに物価ばかり上がる世の中を改善していただきたいです。収入が高い方は物価が上昇しても娯楽をやめたり外食を控えるなど無駄な出費を控えればしのげるかと思いますが、もともと収入が少ない家庭では食費、光熱費でいっぱいいっぱいの生活をしてますので節約するところもなく本当に困っています。
- 電気ガスが高くてこの冬を暖房つけないと決めたが冬を越せるのか不安。
- 食品の値上げは低所得者には命に関わってくる位大きな問題なので、ほんの少しの給付金では助けにならない。
- 普段からギリギリの生活でしたが、物価高騰で食べることもやっとの生活に変わりました。子供への影響は確実に出ています。子供だけでも安定させたくて毎日必死です。どうか未来ある子供達に手厚い支援をお願いします。
- 物価上昇により、日々の食費を賄えなくなり、生活がくるしいです。病院へ行くこともできません。
- 物価上昇に伴い生活が苦しいです。貯金を崩しています。助けて下さい。
- 物価が高くなっているのに、賃金が上がらないのはおかしいです。物価高に見合った賃金の上昇を望みます。

➢ **コロナ禍の影響や不安**

- コロナの影響でリモートワークになり収入が減りました。収入が増える見込みもなく、障害を持った家族のサポートもあり転職も出来ず、物価も上がり本当に困っています。大学進学の資金を貯金していたため、生活困窮者自立支援金に申込する事も出来ませんでした。もう少し柔軟な支援をして頂きたいです
- 学校の活動が以前のように行えないので、子どもが楽しみなイベントが全て中止や短縮になり、楽しみがなくなってしまった。
- コロナで、子供たちの学びが止まるのだけはやめてほしい。
- 家族でコロナに感染してしまい、収入は半分になってしまいました。毎月ギリギリの生活で収入減少になり、医療保険も降りない、会社からも支援がない、行政からも支援無し。

➢ **現金給付への要望**

- これから産まれてくる子供に 10 万円分のクーポンなどではなく、今いる子供達にも 1 人 10 万円いただきたい。物価上がって給料安いままでは生活出来ない。
- お正月前に現金給付をもう一度して欲しい。世帯単位だと家族の人数によって、貰えたとしても、足りない。1 人 1 人にして欲しい。きっと、低所得の人だけが高騰しているのに困ってい

るわけではないと思うので全国民に配って欲しい。

- 子育て世帯にとって物価高騰は生活に直撃するので、このままでは、食べてくのもやっとなので、これから、年末年始にかけて学校なども休みになり、さらに困窮してしまうので、早急に現金給付をして欲しい。
- 一時的な給付金ではなく、しばらくの継続的な給付金をお願いしたいです。
- 電力・ガス・食料品価格高騰緊急支援給付金が一世帯当たり5万円は少なすぎる。1人世帯と5人世帯でも同じ金額は納得がいかない。公共料金も食費も人数に応じてかかる金額が違うので。

➢ **増税反対**

- これ以上税金を上げないでください。働いても働いても物価上昇が賃金上昇に伴わず、このままだと生活が出来なくなります。
- 給料が上がらないのに、これ以上、税金を上げないでほしい。無駄な税金を使わないてほしい。せめて日用品と食品は税金を減らしてほしい。
- 物価上昇に伴い家計が苦しくつらいおもいをしているなか、十分な支援もなく、増税をしようとしているのはひとり親家庭だけでなく子をもつ家庭全てが苦しくなり子供が暮らしにくい世界になります。増税までして追い詰めるのはやめてください。

➢ **子育て支援施策（児童手当、医療費助成等）の対象年齢引き上げ**

- 18歳まで児童手当を受けられるようにしてほしいです。中学3年で打ち切られた児童手当、月1万でもだいぶ助かっていました。義務教育が終わりましたが、義務教育の時より高校生はお金がかかります。
- 児童手当の年齢と金額の引き上げ。子供は成長につれ出費（食費・学習費など）が増えます。高校、大学進学させてあげられるように。
- 子どもが20歳になるまで、継続的な金銭的な支援が必要です。現行の支援だと、中学卒業後の金銭的な見通しがもてない。負の連鎖を生む。
- 医療費を18歳まで助成にしてほしい。

➢ **教育への支援**

- 子供達が夢を諦めなくて良いように、高校、大学、私立も含めて、もっと経済的支援。無償化の幅を増やしてほしいです。
- 高校の給付金・貸付の制度をもっと簡素化して意味あるものにして欲しい。わが家は最初に用意するまとまったお金が無いので本当に辛いです。
- 国の大学無償化の制度をもっと使いやすくしてほしい。現在の制度は、入学後に、進学先の学校を通して学費が減免さる（還付される）しくみになっています。低所得者にとっては、入学前に学費を全額準備をすることが難しいです。入学前に入学金と授業料を減額して学校に振り込める様、制度的に改善をお願いします
- 大きな借金を抱えたまま社会に出ることのないように奨学金の無償化や減額を考えて頂けないでしょうか？
- 部活動も就学援助制度の対象にしてほしい、子供の希望や夢を貧困で潰さない世の中になってほしい。
- 中学校がお弁当の地域です。一刻も早く、給食にする様に呼びかけてほしいです。
- 地域の学校が合わない子どもが、安心して学び、育つ環境の選択肢が経済的な理由で限定される。私立、フリースクール、ホームスクーリング等、送迎や費用の面で諦めざるを得ない。

- 子どもの未来を考えて、所得の低い家庭に塾などの支援をして欲しい
- 塾や美術館・博物館など、学びの支援をお願いしたいです。

➢ **ひとり親世帯の現状・支援**

- シングルマザーで子育てもあるので、残業が出来ません。仕事も正社員の道もすたれ、収入は少なく、仕事の安定がなく、子どもも預かられなく、疲れが取れる暇がありません。これで、物価が上がったらお手上げです。手取り 13 万円です。フルタイムで働いてますよ。これに、ボーナスなし。退職金なしです、
- ひとり親で発達障害がある子を育てていますが、毎日心の波のあるこどもに振り回され、疲れていても家事、町内の会合、仕事は誰にも代行してもらえないことが辛いです。
- ひとり親は収入の多少に関わらず、ひとりで全てまかない責任も背負っていくので、非常に心細い存在です。物価高に怯え、これからかかっていく教育費に悩み、常に日々の暮らしに不安を感じています。教育費を考えると私立に行くのは無理かもと、進路が狭まるのも悲しい現実です。親の収入に関わらず、こどもには等しく未来が開かれている社会を望みます。
- ひとり親家庭でも、様々な家庭環境があり、頼れる身内が 1 人も居ないと本当に助けて貰えません。せめて、他のひとり親家庭よりも金銭面を考えて欲しいです。今、本当に誰にも頼れず苦しいです。
- 自分は、シングルファザーで二人の子供を育てています。子供は小学生で迎えに行ったりしなくてはならないので社員をクビになり非課税世帯になりました。生活も苦しくどうか父子家庭の手当ても考えていただけると助かります。宜しくお願いします。
- DV 避難者などで離婚も出来ない実質ひとり親にも支援の対象を広げてほしい。

➢ **養育費等**

- 養育費が、自営業でも強制徴収出来るよう家族法の法改正を宜しくお願い致します。
- 養育費をもらうのが、当たり前の日本にしてほしいです。相手の給与から、税金などと一緒に、養育費を天引きできるシステムにしてほしいです。支払わない場合は、罰則を設けてほしいです。
- 養育費を確実におさめさせる制度設計、安全な面会交流が出来る仕組み作り。
- シングルマザーとして生活していますが養育費が支払われず困窮しています。養育費を確実に確保できるような法整備を整えてほしいです。
- 子どもの心身の安全安心を守れず暴力から逃れるための離婚をしている場合、子どもの幸せを何より大切にした会話はできないことが多々あります。共同親権は怖いです。

➢ **児童扶養手当の見直し**

- 児童扶養手当などの所得制限は廃止にして下さい。少なくともコロナ禍が収まるまではひとり親家庭に所得制限は設けないで下さい。
- 児童扶養手当の所得額を上げてほしい。児童扶養手当がないとやっていけないため、時短で働いているが、本当はフルタイムで働きたい。フルタイムだと必死で働いても、支援がないとやはり生活は厳しいです。
- ひとり親の児童扶養手当の第二子以降の金額の見直しをお願いしたい。第三子以降の金額はないようなもの。養育費が払われてない家庭が多いので検討をお願いします。
- 子供が遺族厚生年金を受け取れる事になりました。児童扶養手当がその分減額になるとの事でした。一律に減額と言う措置ではなく、子供が受け取る遺族厚生年金は、養育費等と同じ扱いにして、それを含めた総所得で児童扶養手当の額を計算して欲しいです。

- 4 月と 12 月に児童扶養手当などが入らない。満遍なく毎月にしてほしい。新学期や年末年始に一番必要な時に出ないのは苦しい。
- 物価高にともない、もしも賃上げとなったとしても、それにより児童扶養手当が減額されてしまったり受給資格がなくなったりすると結局生活は苦しいままなのではないかと不安に思います。

➢ **多子世帯の現状・支援**

- 少子化対策に力を入れているようですが、多子世帯の家庭にも目を向けてほしい。多子世帯では、子供の教育費が家計に重くのしかかっています。非課税世帯も大変だと思いますが、非課税世帯ギリギリの多子世帯中間層世帯は、苦労しています。生活することで精一杯で、貯金する余裕もありません。
- 子供の貧困、特に多子世帯への支援を充実させて欲しい。将来を担う子供達に明るい未来と希望をもてるようにして欲しい。お金がないから学べないというのを無くして欲しい。
- 多子家庭向けの施策は子どもたちの年齢が近くないと利用できないものもあったので、なるべく人数だけをカウントして利用できるようにして欲しい。保護者の単純な年収ではなく、可処分所得でいろいろなことを計算して欲しい。

➢ **所得に応じた柔軟な支援**

- はたらいてお金を稼ぐと手当が停止になる。所得制限の撤廃もしくは基準額拡大、緩和をお願いしたい。
- 頑張って働いて、非課税にならないように働くと税金で引かれ、給付は受けられず、働かないほうが得をする非課税世帯優遇の制度を改善してほしい。給料は上がらないのに、光熱費や物価の上昇し、余裕のない家庭にとって、苦しくなる一方。非課税世帯、生活保護などもちろん仕方がない人もいるが、あえてそれを選んでいたり、預貯金のある年金世帯など、そこに支援ばかりしていたりすると頑張る気力もなくなってしまう。
- 住民税非課税世帯への援助は手厚いが、ギリギリ非課税ではなくなった世帯への援助が乏しい。住民税は支払わなければならず、児童扶養手当は一部支給になり、給付金なども受けられない。結果的に、子どもとの時間は取れなくなり、貧乏に暮らさねばならなくなる。自分の力で何とかやっていこうと努力している世帯への支援を考えてほしい。
- 非課税世帯で区切るのはおかしいです。非課税所得より、1000 円でも多ければ課税世帯です。給付金といって渡してますが、非課税世帯が給付金もらうと、少しオーバーしただけの課税世帯より多くなります。1 番辛いのはそこの世帯だと思います。
- シングルマザーが貧困と言われてますが、シングルファーザーでも貧困で、ぎりぎりの生活をしてます。非課税水準よりわずかに高いと給付を受けれない人たちがいる事を忘れないでください。

➢ **困窮子育て世帯の現実を知ってほしい**

- 子供にどれだけお金がかかるのか、女性が育児をしながら収入を得ることがどれだけ大変か実感としてわかる方に大臣をして頂きたい。
- 未来を担うこどもたちの事にもっと目を向けて欲しいです。こどもたちはコロナ禍でたくさん我慢しています。現場の声を聞きに来て欲しい。
- 少子化対策と言いながら、実際に行なっている政策は子育て世帯を苦しめる様な政策ばかりです。きちんと子育て世帯の意見を聞き入れて政策を考えて下さい。どんどん子育て世帯は苦しくなるばかりです。本当に少子化対策をしようと考えているのかと疑問に思うほどです。こ

のままでは生活できないです。

- 地方在住のものです。生活物価指数は都会より安いと思われがちですが実際はそうではありません。むしろ都会よりも随分お金がかかるのが現状です。そしてフードバンクなども地方にはあまりありません。都会と同じように地方の現状もみていただけたらと思います。
- お金の使い方が間違ってる。困ってる家庭は沢山あるのに政府は見て見ぬふりばかりで全然助けになってません。
- 今から生まれる子供の補助に最近ニュースが出ているが、今子育てしている私達が苦労している。政府は旅行支援などばらまきしないほしい。
- 子育て世代や弱者の為に本当にためになる政治をお願いします。増税ばかりなのに社会福祉や教育、子供のために還元されている実感が全く無い。

➢ **将来につながる支援・根本的な支援**

- 「子どもの貧困」＝「親（保護者）の貧困」です。子どもの貧困だけに焦点を当てたその場限りの対処療法だけでは、経済的格差から来る貧困の連鎖は無くなりません。早急に必要な対処療法と同時に、日本の子どもの未来のためにも、根幹である、子育て世帯の最低限生活に必要なお金が足りていない、「金銭的資源の欠如」という貧困の根本的な問題解決のための政策を望みます。
- 給付金もいいけど子育てをするのにお金がかからないような仕組みにしてほしい。保育園や小学校で使うもの配給制にするなど。給食費無料など。
- 給付金を時折実施して頂いてますが、その場しのぎという事に早く気づいて欲しい。世の中全体の給与が上がれば様々な値上げにも対応出来ます。ひとり親でも稼げれば将来を担う子供の世界が広がります。早く気づいて対策してください。
- 現状の課題の解決と、未来の子どもたちへの負担軽減につながる政策の実現を欲しい。
- 物価上昇とともに、賃金の見直しを行なっていただきたいです。日本は海外よりも労働力があり、拘束時間も長いのに、賃金が低すぎます。物価を上げざるを得ないのであれば、まずは賃金の底上げをしていただきたいです。
- 子育て世帯を助ける政策をしてほしいです。女性が仕事をしやすい、子供を育てやすい社会にしてほしい。緊急的、恒常的な支援は今は、必要としてます。今後子供たちが成長した後の社会では私のような生きづらい世の中ではなくなっている未来であってほしいです。

以上